

令和3年度 学校評価表

三原市立久井小学校

校番(小 19)

評価計画					自己評価					改善方策		I 学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評価			コメント		
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ			
確かな学力	主体的・対話的・深い学びの創造	学ぶ楽しさを実感できる授業づくり 学習者用情報端末の活用による授業改善 家庭学習の充実による学力定着	・学力分析に基づく学力向上の取組(学び直しの場の設定, 小中連携による授業研究) ・共に学ぶ集団づくり ・学習者用情報端末活用による積極的な授業改善 ・個別最適な学びの実践 ・家庭学習の習慣化	①学力定着確認テストの正答率 ②QUの結果をもとに, 学級指導を行う。 ③ドリルタイムで学習者用端末を使い個に応じた学び直しを行う。 ④担当教科で学習者用端末を使い授業改善を行う。(各学期1回以上)	①全国平均以上 ②要支援児童の割合を減らす。 ③100% ④90%	①NRT結果 国語64(全国比102) 算数66(全国比105) 理科67(全国比98) 全国学力調査結果 国語71(県比107) 算数72(県比102) ②全教職員で, 取組計画を交流し, 全学級が共に学ぶ集団作りを取り組んだ。 ③全学級がドリルタイムにミライシードに取り組んだ。 ④全教職員が担当教科で学習者用端末を使って授業を行った。夏休みには, 実践交流を行った。使用頻度には差があり, 効果的な活用方法について研修を深めていく。			①100% ②取組中 ③100% ④78%	B	・本校の課題をみんなで共有し, 全教職員で, 取り組み方をそろえて取り組んでいくことで, 子どもたちに基本的な学力を身につけさせることができた。 ・日常的に学習者用端末の活用事例を交流したり, 夏休みに実践事例についての意見交換をしたりすることで, 教職員の中で学習者用端末を活用するよさを共有することができた。	・年度当初, ドリルタイムにおいて, ミライシードを使って学び直しを行うことを確認し, 1学期間取り組んだが, 学力の定着を担任がきちんと見取ることができないという課題が出されたため, 2学期以降は, プリントとミライシードのよさを生かし, 両方を使って学び直しを行う。 ・授業における学習者用端末の活用については, 学級間に差があるため, 授業を見に行こう月間などを活用し, 効果的な学習者用端末活用についての研修を深めていく。	5	0	0	・参観させていただき, 児童の学びに向かう姿勢は素晴らしい方です。 ・学習者用端末を使う授業改善の研修を深めてください。
豊かな心	自己肯定感が高い心豊かな子どもの育成	基本的な生活習慣の確立 地域を教材とした学習活動の充実 不登校の未然防止	・生徒指導の三機能を生かした指導 ・生活上の基本の指導を徹底(時間 挨拶 掃除) ・体験活動の充実(自然・文化・地域人材) ・児童会による自治活動の充実 ・SSRの活用, 相談体制の充実	児童アンケート肯定的評価の割合	・「自分から進んで挨拶をした」児童アンケート90%以上。 ・「よりよい学校, 学級にしよう」とがんばっている。」児童アンケート90%以上。	①児童アンケート84% ②児童アンケート96.8%			①90% ②95%	B A	・久井小あいさつ隊の活動もあり挨拶が良くできている学年が多かったが, 全体的には8割とまだまだ低い。 ・掃除や係活動, 久井小の宝を見つけるなど高学年をお手本に学校や学級をよくしようという具体的な取り組みができた。	・引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら, 児童会が中心となって, あいさつを啓発する取り組みを継続していく。 子どもたちが, より具体的に取り組みに対しての肯定的な評価を行える場を設定していく。	5	0	0	・全ての学級でロッカーの中が整理できており, 掲示物も大切に掲示され指導や評価が徹底されています。 ・あいさつ運動が更に充実するように期待しています。 ・SSRの活用による成果を期待します。
健やかな体	体力向上と健康教育の推進	新体力テストの分析による重点課題の克服 食育の推進	・新体力づくりテストの分析に基づく体育科授業の工夫改善(全国平均以上を目指す。) ・「金のルール」「食育」による生活指導(早寝, 早起き, 朝ご飯, 食のバランス)	走力の向上(50m走の記録を全国平均結果より, 記録を伸ばした児童の割合)	85%以上 (5月, 10月2回実施)	5月に5・6年対象に体力テストを行う。特に5年女子において走力が県全国平均を下回る。体育に関する指導改善計画に居ついて取り組んでいる。10月に50m走の記録をとる予定である。			10月に記録をとり結果をみる		コロナで外出の機会も減り, 全体的に肥満傾向にある。それに伴って体力の低下も考えられる。学校ではロング昼休憩や外遊びの奨励, 児童会活動や体育の時間の活動で身体を動かす機会を多くとれるようにしている。	・2年前までに行っていたマラソン大会に変わるものとして, 普段目標をもって取り組める内容で, なるべくみんなが楽しんで行えかつ達成感ももてるような体力づくりを考えている。全校での活動が行いにくい中, 短縄跳びや長縄跳びなど, どのような形で行うのがよいか検討していく。	5	0	0	・児童の実態に応じた指標です。 ・全校で取り組む体力づくりを工夫して取り組んでください。
信頼される学校	開かれた学校づくりと教職員の資質向上	小中連携教育の成果が保護者・地域に伝わるための情報発信	・学校・学級・保健だよりの発行 ・連携教育だよりの発行 ・HPの積極的な更新 ・園小中連携 ・服務研修の充実(不祥事ゼロ) ・主任主事を中心とする協働的・組織的な学校経営	①各だよりの発行(月1回以上) ②HPの更新(月1回以上) ③幼保小中の連携回数(年4回以上) ④接遇研修を含む服務研修(月1回以上) ⑤小中合同の学校経営会議を開催(月1回)	100%	①100% ②100% ③50% ④100% ⑤100%			①100% ②100% ③50% ④100% ⑤100%	A A C A A	・学級だよりと保健だよりは, 定期的に発行し児童の様子について保護者へ伝えることができた。 ・HPは月に1回学校だよりを更新し, 学校, 学級の様子を伝えることができた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 久井認定こども園と連携することができなかった。 ・小中の教務主任が連携をとり, 定期的に学校経営会議を行うことができた。	・行事予定をもとに掲載する学年を決め, 学習や各行事の様子を, 毎月1回以上学校だよりで保護者へ知らせしていく。 ・HPの更新, 服務研修, 学校経営会議については, 引き続き計画的に実施していく。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら, 久井認定こども園と連携していく。	5	0	0	・開かれた学校にご尽力されています。 ・小中連携を更に充実させてください。学校だよりの発行を地域は期待しています。
働き方改革	教育の質の向上を図るための環境づくり	「指針」に基づいた学校の取組を推進	・上限目安時間の管理(45時間/月) ・週1回の定時退校日の徹底 ・組織的・計画的な学校運営による効率化	①月の時間外在校等時間を45時間以内	100%	83%			83%	B	・45時間を超えたのは, 4月が6名, 5月が1名, 6月が8名, 7.8月は0名, 9月が2名であった。年度始めや夏休み明けなど, 学校を再開した月は宿題の確認等で, 時間外在校等時間が増える傾向がある。	・各主任, 主事等を中心に学校全体で業務改善, 意識改善を進め, 時間外在校等の時間を減らしていく。	5	0	0	・働き方改革に向けて工夫が伺われます。 ・さらなる業務改善に努めてください。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【J: 自己評価 評価】
A: 100% (目標達成)
C: 60% (もう少し) < 80
B: 80% (ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【I: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。